

身に付けさせたい資質・能力を 明確化した校内研究の取組

～教師と児童でつなぐ・つなげる「読むこと」の実践～

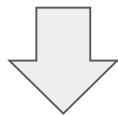
石巻市立向陽小学校 菅井 麻衣

発表の流れ

- 1 本校の研究について
- 2 1年目の実践（文学教材）
- 3 2年目の実践（説明文教材）
- 4 3年目の実践（教科書新教材、他領域）
- 5 成果と課題

1 本校の研究について

- 4 年前まで算数の研究を継続
- 6 学年中 5 学年が算数より国語の標準偏差<低>
※東京書籍 標準学力調査
- 国語の授業に対する苦手意識<高>
- 国語科授業づくりについての知識<少>



国語科における指導力向上の必要性

1 本校の研究について

国語科の指導における教員の課題意識

- 発問づくりが難しい
- 児童の考えの取り上げ方が分からない
- 指導書に頼るだけの授業になってしまっている
- 何を教えればよいか教員自身が理解していない

1 本校の研究について

国語科における児童の実態

- 自分の考えを発表することに苦手意識を持っている
- ノートに自分の考えを言葉で書ける児童が少ない
- 他教科においても、題意を正しく捉えることが難しい

小学校国語科の目標の確認

第1 目標

言語活動は、資質・能力を高めるための手段

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説



目指すべきは、資質・能力の育成

1 本校の研究について

校内研究の充実（理論研修、授業実践）



身に付けさせたい資質・能力が明確化された授業実践

言葉による見方・考え方を活発に働かせる深い学びの実現

児童の国語科における資質・能力の向上

1 本校の研究について

校内研究テーマ（令和4年～6年度）

自分の考えをもち、

進んで学び合う授業の工夫

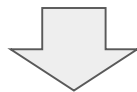
2 1年目の実践（文学教材）

＜教職員の課題意識を踏まえた教職員研修の充実＞

教材分析の理論と方法の理解

学習用語の共通理解

授業の組み立て、板書、ノート指導の統一



児童に身に付けさせるべき資質・能力、
効果的な指導法を明確化

領域・事項	「読むこと」(「書くこと」との関連も含む)		「言語事項」 (※「読むこと」 「書くこと」関連)
	文学(的文章)教材	説明的文章(説明文)教材	
ジャンル・文種	物語・詩 (ものがたり・し①～) ファンタジー③～ 俳句(川柳)・短歌(和歌) ・古文・漢文⑤～	説明文 (せつめいぶん①～)	ひらがな①～ カタカナ①～ 漢字(かんじ①～) 送り仮名 (おくりがな②～) かなづかい②～ 主語・述語⑤～ つなぎのことは②～
書き手	作者(さくしゃ①～)	筆者(ひっしや②～)	接続語 (接続詞⑤～) 慣用語④～
読者 読み手	読者②～ 初読・再読③～	読者②～	指示語⑤～ 助詞⑤～ 修飾語(被修飾語)⑤～
視点	語り手(かたりて①～) 内の目・外の目③～ 視点⑤～		複合語⑤～ 和語・漢語・外来語⑤～
人物	(登場)人物(人ぶつ②～)		
表現	地の文・会話文②～ 反復(くりかえし①～) 様子(ようす①～) 気持ち(きもち①～) 理由(わけ①～) 比喩・声喩 (ひゆ・せいゆ②～) (情景)描写⑤～ 擬人法⑤～ 倒置法⑤～ 現代文・文語文(文語調)⑤	意見・事実⑤～ 反復③～ (くりかえし①～) 比喩・声喩 (ひゆ・せいゆ②～) 擬人法⑤～ 理由(わけ①～)	
主題	主題(テーマ)⑤～ 価値⑥～(ねうち①～)	要旨⑤～ 筆者の意図⑥～	
形式 構造	題名(だいめい①～) 設定、展開—山場—結末(物語文)⑤～ はじめ—つづき(なか)—終わり②～(結論③～) 序論—本論—結論④～ 場面・段落・連②～ 仕掛け(しかけ②～)、順序、「問い」と「答え」		
文体	常体・敬体⑤～(ていねいないい方・ふつうのいい方③～)		
文末	文末(文まつ)②～ 現在・過去・未来(推量)・強調・伝聞⑤～		
その他	音読(おんどく②～)、一文読み・一人読み、朗読⑤～ 黙読(もくどく②～)		

※ この「学習用語表」に示したそれぞれの語句とその意味は、初めて指導する学年の目安です。「～」は継続して当該学年以降でも指導することを示しています。

	「読むこと」 (「書くこと」との関連も含む)		「言語事項」 ものの見方・考え方(思考・判断等)に係る用語
1年	【ジャンル】 ものがたり、し、せつめいぶん 【文体・構成・構造】 さくしゃ、ひっしや だいめい、かたりて、人ぶつ 【視点・表現】 ようす、きもち くりかえし 【「読み」の方法】 おんどく	○ことば ○ぶん ○「。」と「。」 (「てん」と「まる」) ○ひらがな ○カタカナ ○かんじ ○〈わ〉と〈は〉 ○〈え〉と〈へ〉 ○〈お〉と〈を〉 (助詞の使い方)	○くらべる ・ちがうところ ・おなじところ にしているところ ○じゅんじょ ○わけ
2年	【文体・構成・構造・表現】 作者、筆者、語り手、読者 ばめん 地の文・会話文 はじめ—つづき(なか)—終わり しかけ、反ぶく、わけ ひゆ(たとえ)、声ゆ 【「読み」の方法】 音読(一文読み・一人読み)・もく読	○おくりがな ○「も」(助詞) ○つなぎのことは (接続語・詞)	
中学 年	【ジャンル】 ファンタジー 【文体・構成・構造・表現】 場面、段落、連 「問い」と「答え」 はじめ—つづき(なか)—終わり(結論) 【「読み」の方法】 暗唱	○せつぞく語 ○文末 ・ていねいないい方 ふつうのいい方 (常体・敬体) ○音読み・訓読み	○比較(対比・類比) ○理由・原因 ○整理(類別・分類) ○条件 ○予想 ○仮定 ○関係(構造・構成)
高学 年	【ジャンル】 俳句(川柳)、短歌(和歌)、伝記 古文・漢文、随筆 【視点・文体・構成・構造・表現技法】 視点、構成 擬人法・倒置法 同化・異化 主題(テーマ)、要旨・要約 書き手(作者)の思い、筆者の意図 意見・事実 (情景)描写 現実—ふしぎな世界(非現実) 序論—本論—結論(説明文) 設定、展開—山場—結末(物語文) あらすじ、小見出し、引用 【「読み」の方法】 朗読	○文末…現在・過去・未来(推量)・強調・伝聞 ○常体・敬体 ○尊敬語・けんじょう語 ○ていねい語 ○現代文・文語文 (文語調) ○方言・共通語 ○指示語・接続語(詞) ○助詞 ○修飾語(被修飾語) ○複合語 ○和語・漢語・外来語 ○主語・述語 ○句読点	○選択 ○仮説 ○関連(させる) ○相関(関係) ○評価・判断・感情

1 文学教材の場合

導入の段階

- 1 <だんどり>＝作者について，内容やテーマについての補足など
- 2 <とおしよみ>
 <ひとりよみ> <よみきかせ（範読）>
 <はじめの感想> <感想の交流>
 <ことばの学習>＝新出漢字の練習，難語句の確認

展開の段階

- 3 <たしかめよみ>＝場面・意味段落ごとの学習
 内の目と外の目～共同体
 <あいだの感想>
 <感想の交流>

整理の段階

- 4 <まとめよみ>（典型化の段階）
 <まとめ>＝テーマ（主題），典型化
 <おわりの感想>
 <感想の交流>
 <つづけよみ> <くらべよみ>＝同じ作家の作品，同じジャンルの作品

2 説明文教材の場合

導入の段階

- 1 <だんどり>＝筆者について，内容やテーマについての補足など
- 2 <とおしよみ>
 <ひとりよみ> <よみきかせ（範読）>
 <はじめの感想> <感想の交流>
 <ことばの学習>＝新出漢字の練習，難語句の確認

展開の段階

- 3 <たしかめよみ>＝形式段落ごとの要約
 筆者の表現等の工夫
 <あいだの感想> <感想の交流>

整理の段階

- 4 <まとめよみ>（典型化の段階）
 <まとめ>＝要旨（筆者の主張），構成
 <おわりの感想>
 <感想の交流>
 <つづけよみ> <くらべよみ>＝関連する説明文

段階	主な学習活動	主な発問と指示	指導上の留意点
導入	1 本時のめあてを確認する。	※前時の児童の感想を紹介（発表）するのも有効	※導入は短い時間で。 ※振り返りは必要最低限。 場合によってはなし。 1めあては早い段階で具体的に短く示す。
	学習課題（めあて） 児童に分かりやすい言葉で短く。		
展開	2 音読する。 ① 範読 ② 斉読，一人読み 指名読み等 【発問1】～（内の目） ※人物の心情を考えたり，想像を広げたりする発問		2 教師による範読も行う。 音読の方法は様々な方法があるので，何のために，どのタイミングで，どんな音読をさせるのか考える。
	3 発問について自分の考えを（ノートに）書く。	○発問の文言は児童の発達段階・実態を踏まえ吟味する。	3 発問数は少なくする。 ※机間指導で評価と意図的指名の準備を行う。
	4 ペアで考えを交流する。	○ペアで何をするのか，指示は明確に，短く出す。	4 ペア交流を活用し，全員が伝えること，受け止め，理解することを行う。 ※机間指導で評価と意図的指名の準備を行う。
	5 全体で交流する。		5 全体交流では，意図的に指名し，本時のめあてに迫り，より深まるようにしていく。
	6 まとめをする。 【発問2】～（外の目） この人物をどう思いますか？		6 本時のまとめは本時のめあてと対応するようにする。
まとめ	7 感想を書く。		7・8 登場人物や本時の場面についてどう思うか，外の目で評価させることで「豊かな読み」「深い読み」を目指す。
	8 感想を発表する。	※発表は数名 次時の導入で発表を生かすこともある。	※ 外の目で捉えて書いているものを意図的指名で発表させる。

<授業実践 東京書籍 2年国語「名前を見てちょうだい」>

だい六場めん

① かな かな えっちゃんかな

えっちゃん

たいひ

大男

ゆきがもうもう

声

ふるとみぶるい

ぐわあんと大きく

ぶるぶるふるえ

またぐわあんと

くりかえし

しぼんでしぼんで

大男と同じ大きさ

強い

強ちよう

弱い

しぼんで

たたみのような

ひゆ

空気のもれる

風せんのように

「名前を見てちょうだい」

文まつ

あたしのぼうしをかえしなさい。

②

あたしのぼうしをかえしなさい。と言った
えっちゃんは、どんなことを考えていたかな。

ゆるせない

かえしてくれるまで↓ぼうしと名前も

ぼうしがないとダメ↓大切

おかあさんがかなしんじやう

大すきな

おおかあさん 名前をつけてくれたぼうし

③

おおかあさん 思い ぼうしが大切
立ちむかう ゆうかん

こわいものしらす 心があつい

おおかあさんとぼうしが大好き

<授業実践 東京書籍2年国語「お手紙」>

外

二人
すばお
立ち直れる子
しあわせ

二人とも、とても
ありがとう、
楽しみ
おどろいた、
かえるくんやさしい
かんどう
ハッピー かんしゃ

二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

内

二人とも、とても
かなしい気分です、
くりかえし、
強ちよう、
かえるくんが、かまぐんによりそっている
やさしさ、親切、親友、

二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

外

二人
すばお
立ち直れる子
しあわせ

二人とも、とても
ありがとう、
楽しみ
おどろいた、
かえるくんやさしい
かんどう
ハッピー かんしゃ

二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

内

二人とも、とても
かなしい気分です、
くりかえし、
強ちよう、
かえるくんが、かまぐんによりそっている
やさしさ、親切、親友、

二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

外

二人
すばお
立ち直れる子
しあわせ

二人とも、とても
ありがとう、
楽しみ
おどろいた、
かえるくんやさしい
かんどう
ハッピー かんしゃ

二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

内

二人とも、とても
かなしい気分です、
くりかえし、
強ちよう、
かえるくんが、かまぐんによりそっている
やさしさ、親切、親友、

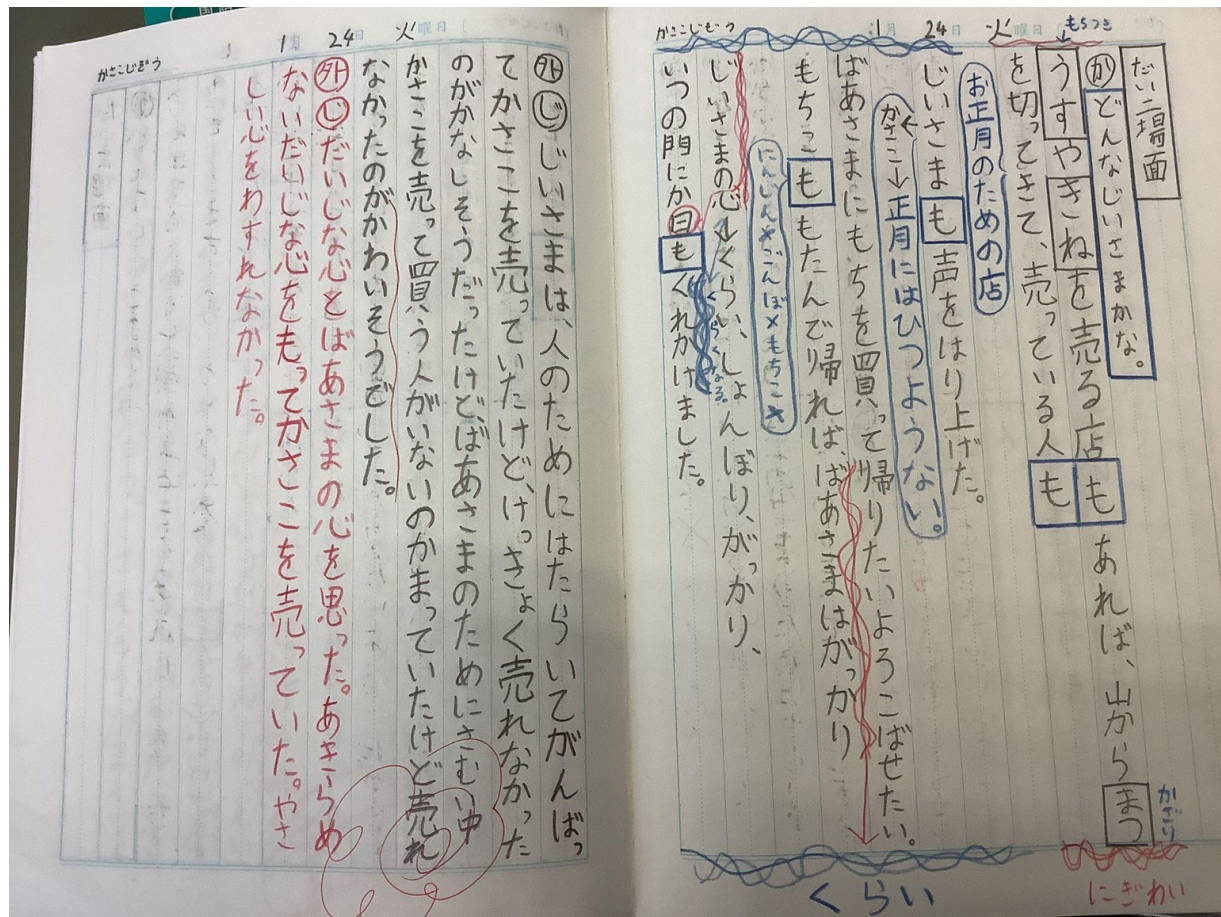
二人とも、とても
あわせな気持ちで
ハッピー、
よかった、
言っちゃった、
これでまたなくていいね、
うれしい えがお

お手紙

作しや

アーノルド・ローベル

<授業実践 東京書籍 2年国語「かさこじぞう」>



学習後の児童の感想 2年「名前を見てちょうだい」

えっちゃんはおこるとこわくてつよい（条件）ですが、本当はとてもやさしいのです。（文末）じゅぎょうではたいひ・るいひでくらべたり、ひゆやくりかえし、声ゆなどをさがしながら読むことができました。えっちゃんの気持ちを考えたり、えっちゃんはどんな人かを考えたりしました。たくさんのかたのことを学びました。

「名前を見てちょうだい」を読んでもたら、さくしゃはるいひ・たいひをつかったり、くりかえしをつかったりしていたので、ぼくも作文をするときにはわすれずにつかいたいです。

学習感想 2 年「かさこじぞう」

むかしのことばや、やさしさを大じにすることを学びました。ひょうげんのくふうでは、はんぷくです。とんぼりとんぼりやずっさんずっさんなど強ちょうするのためにつかっていました。大切だと思ったことは、だれにでも何にでも親切にすることです。

人のことを思ったり、人のことを大切にしたりするのを今よりもっと大切にしていきたいです。（中略）作しゃのひょうげんのくふうは「も」をつかったり、くりかえして強ちょうしたりしているところにくふうがたくさんありました。これからも国語のべんきょうをがんばってしていきたいです。

2 1年目の実践（文学教材）

教師：授業への手応えを実感

説明文教材も学びたい！

児童：授業に自信を持って取り組む姿

東京書籍 標準学力調査 国語

「物語を読み取る」6学年中3学年目標値↑

「文章を書く」全学年目標値↑

3 2年目の実践（説明文教材）

- 1年目の内容（文学教材）を継続
- 説明文の教材分析の理論と方法について研修
- 学年部主体で協働での授業づくり（系統性意識）
- 成果と課題を共有し研究の深化・充実を図る
- 国語科における学習用語の確実な指導
- 作者、筆者の表現の工夫を捉えさせる

2 説明文教材における分析の観点

(1) よい説明文（教材）としての条件

- ①事実（真実）が書かれているか
- ②（児童にとって）学ぶ価値のある内容か
- ③（児童にとって）分かりやすく書かれているか
- ④（児童にとって）興味・関心をもてる内容であるか

(2) 構造／機能（語句／文章の構成・構造／仕掛・仕組）

- ①題名の工夫（仕掛）・観点と内容の関連性
- ②文章の構成・構造…はじめ—つづき（中）—終わり（結論）
- ③設擬法（仕掛）
- ④「問い」—「答え」
- ⑤「事実」—「意見」／「事実」—「わけ」
- ⑥「予想／仮説」—「結果」
- ⑦段落構成
- ⑧首尾照応
- ⑨中心・重要語句（キーワード）、キーセンテンス
- ⑩仕組と仕掛
- ⑪演繹的、帰納的構成

(3) 表現・認識方法（言語事項）

- ①対比／反復／類別
- ②比喩／声喩（擬音・擬声・擬態）／活喩（擬人法）
- ③順序／展開
- ④例え／模式
- ⑤仮定／推論／類推
- ⑥条件／理由
- ⑦関連・連環
- ⑧文末表現／指示語／接続詞／助詞
- ⑨文型
- ⑩挿絵／写真／図

(4) 要旨／認識内容

- ①要旨
- ②本質・法則・心理・真実・価値・意味
- ③読者の論法

説明文教材は内容読解になりがち



分析の観点の明確化



「**筆者の表現の工夫を捉えさせること**」を共通理解。

(1) よい説明文の条件

(2) 構造／機能等

(3) 表現・認識方法

(4) 要旨／認識内容

<授業実践 東京書籍2年国語「あなのやくわり」>

(め) 「はじめ」に書かれている
くふうを見つけよう。

しかけ

① みのまわり ↓ 自分 ↓ 読しゃ
わたしたち
↓ ひっしや
読しゃをひきこんでいる

② あなは何のために
あいているのでしょうか
問い やくわり

読みたくなる、考えなくなる
読しゃ

③ 考えてみましよう、よびかけ
文まつ

読しゃは読みすすめたくなる

じゅんじよ
みぢか ↓ 考える
かんたん ↓ おずかしい

(ま) はじめがあることで、
読しゃを文しょうにひきこみ
読みすすめたくさせている。

3月 7日 水曜日

⑤ いっしょはいけんじょよく書き回をむずかしく
したりたいひしたりして読者が分かりやすく考
えることもできるようにしている。
おもしろい。せい長↓読むかちがある。
金へのくふう
かんたんなやくわりかりむずかしいやくわり
かんたんなひょうげんかりむずかしいひょうげん
いけんじょをくふうしている。
かさいしよはあなはなんのやくわりもない
と思つてたけど読むだけひあなのやくわりか
あたんだと思つた。

3月 8日 水曜日

⑥ ① おわりへに書かれこいるくふうを讀みとうう。
一文目 ② このように金を書き。まとめとわかる。
二文目 ③ 答へにもなっている。
④ このほかに⑤
⑥ 読者にもとほかのことにも目をむけてほしい
三女目 ⑦ へみなさん⑧ へ考えこみまじょうへよびかけ
。読者はあなのやくわりを考えたくなる。
⑨ ⑩ ↓文しようい外でもやくまじつ讀しせい長かしこく
⑪ ⑫ いっしょは讀しにあなのやくわりを知りこもらう
ためにいろいろなくくふうをじている。
⑬ ⑭ まひっしよは讀しにわくわくさせながらせい長
させたりかしこくさせている。
⑮ ⑯ いっしょは讀しにあなのやりについてもうたためにことばや回をく
ふうしながらいけんじょよく書いている。

3 2年目の実践（説明文教材）

＜教師の変容＞

- 教材分析の大切さを実感。
- 単元を見通した教材分析が行われるようになった。
- 指導事項や指導法についての理解が深まった。
- 教員同士が共通認識を持って日常的に授業づくりについて話し合う様子が見られるようになった。
- 他教科・他領域での自発的な実践も。

3 2年目の実践（説明文教材）

＜児童の変容＞

○自分の考えを言語表現できる児童＜増＞

○標準学力調査 国語

「物語文を読み取る」 「説明文を読み取る」

6 学年中 3 学年目標値↑

「文章を書く」

全学年目標値↑ 4 学年全国↑

4 3年目の実践（新教材、他領域）

- 2年間の内容を継続。（文学教材、説明文教材）
- 教科書改訂による新教材を積極的に扱う。
- 「読むこと」で身に付けさせた資質・能力を他教科、他領域、
学校生活等で活用。

<授業実践 東京書籍 1年国語「おおきなかぶ」>

おじいさん
 あまい あまい
 おおきな おおきな

かぶがおいしくそだってほしい
 おおきくげんきにそだってほしい
 みんなにわけてあげたい
 みんながげんきになってほしい

やさしい すてき
 みんなのことをかんがえている
 かぞくをたしせつ たべさせたい
 がんばりや はたらきもの

ありがとう

じんぶつ じゅんじょ
 おじいさん
 おばあさん
 まご
 いぬ
 ねこ
 ねずみ

どうぶつ
 ひと

おおきい
 つよい
 ちいさい
 やわい

<授業実践 東京書籍 1年国語「サラダでげんき」>

だいまい
えいよう
やさい

サラダでげんき

さくしゃ
かどの えいこ

かんそう

じゅんじょ
おすすすめ
おしえて
たすけて

くりかえし
じんぶつ

せいゆ
おと ↓ カタカナ

ようす
↓ ひらがな

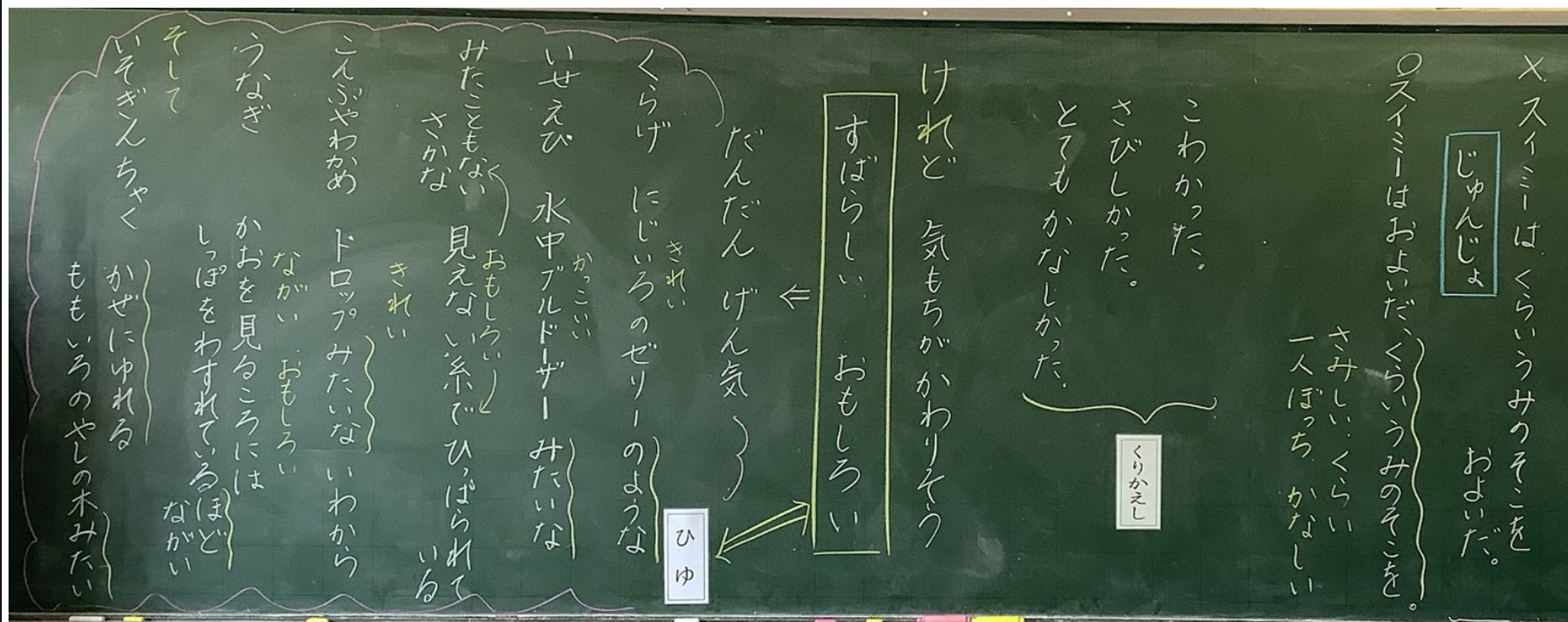
りずお
やさいをきるおと

おなじ
↓ こを入れると
くになる

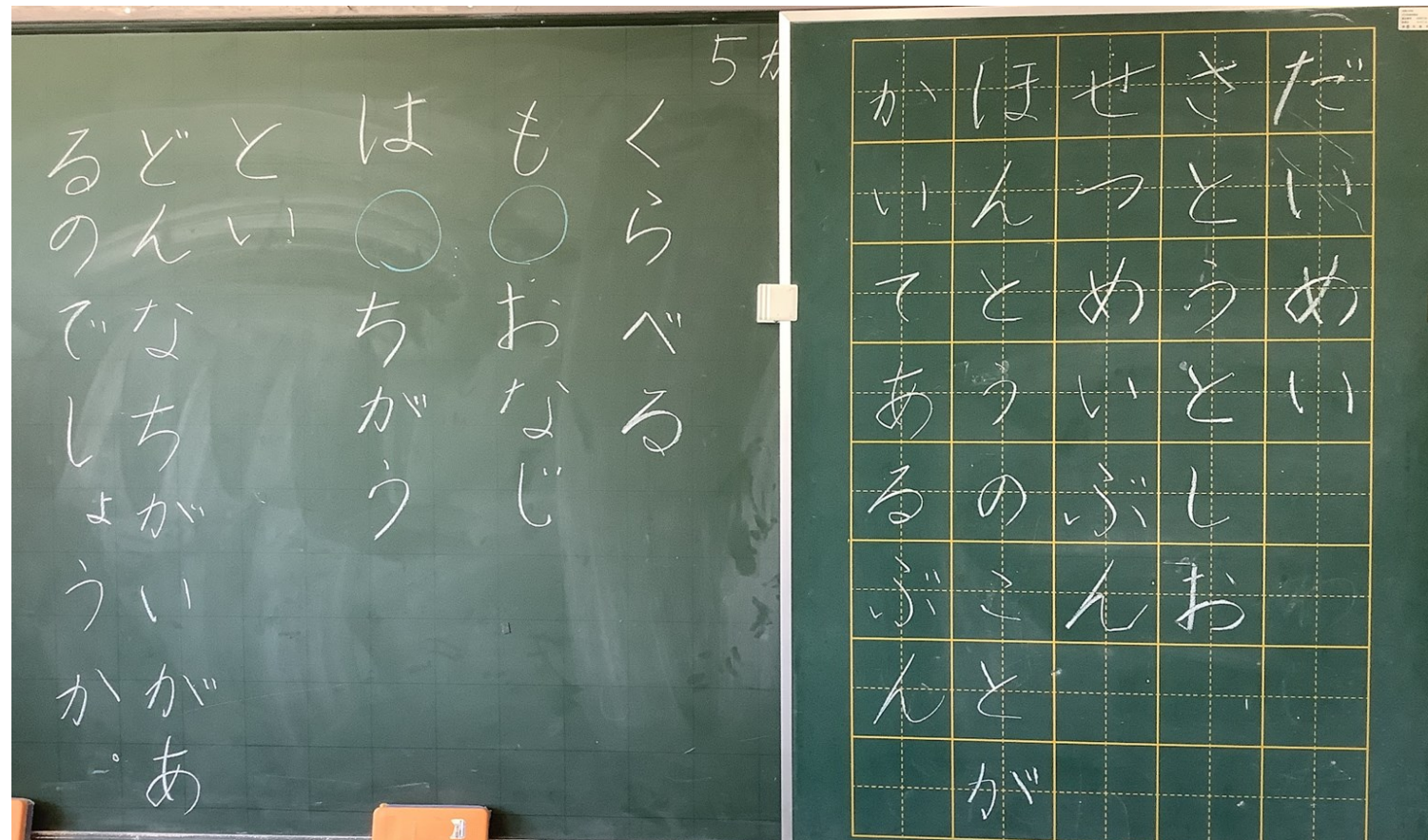
ちがう
白くま ↓ でんぼう
おすすすめのもの
ようす のっそう
とびこんで
そう おすすすめのわけ

わけ

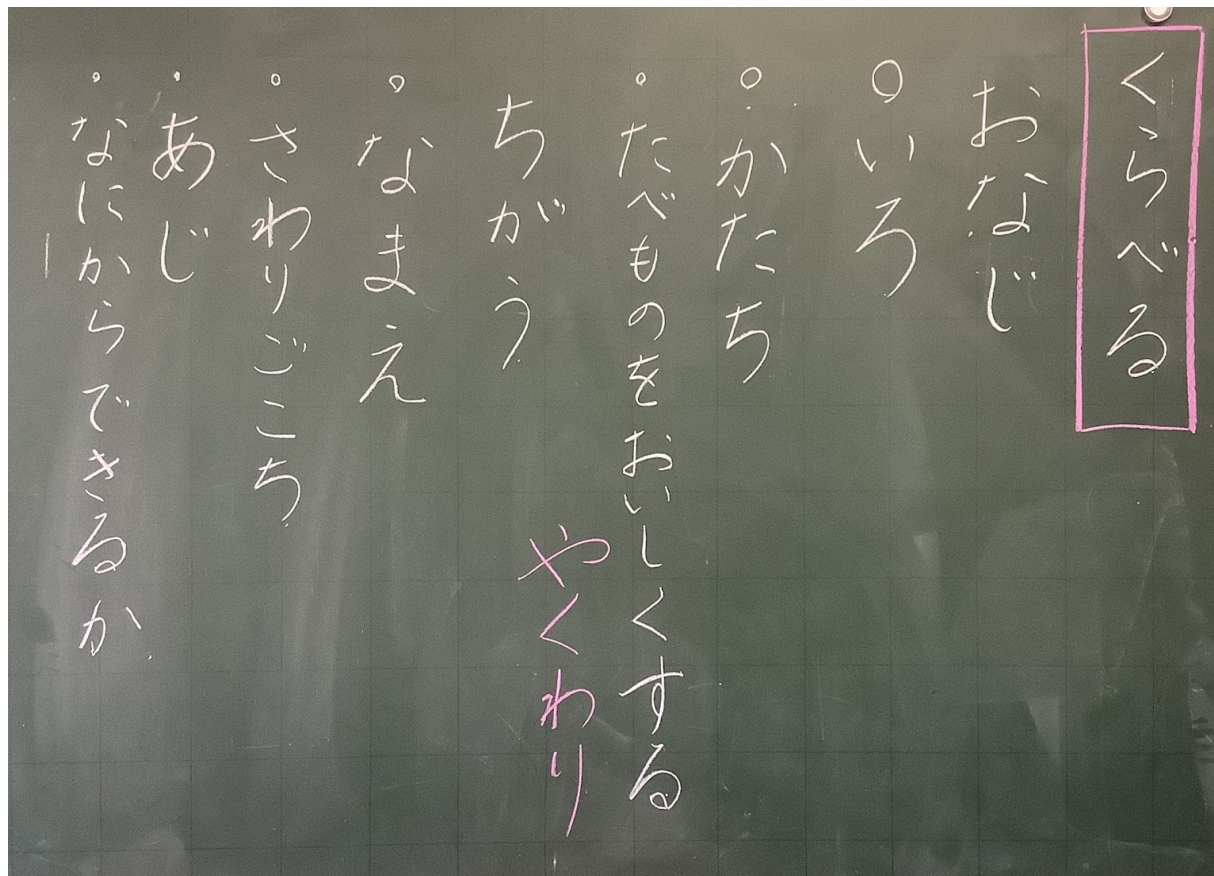
<授業実践 東京書籍 1年国語「スイミー」>



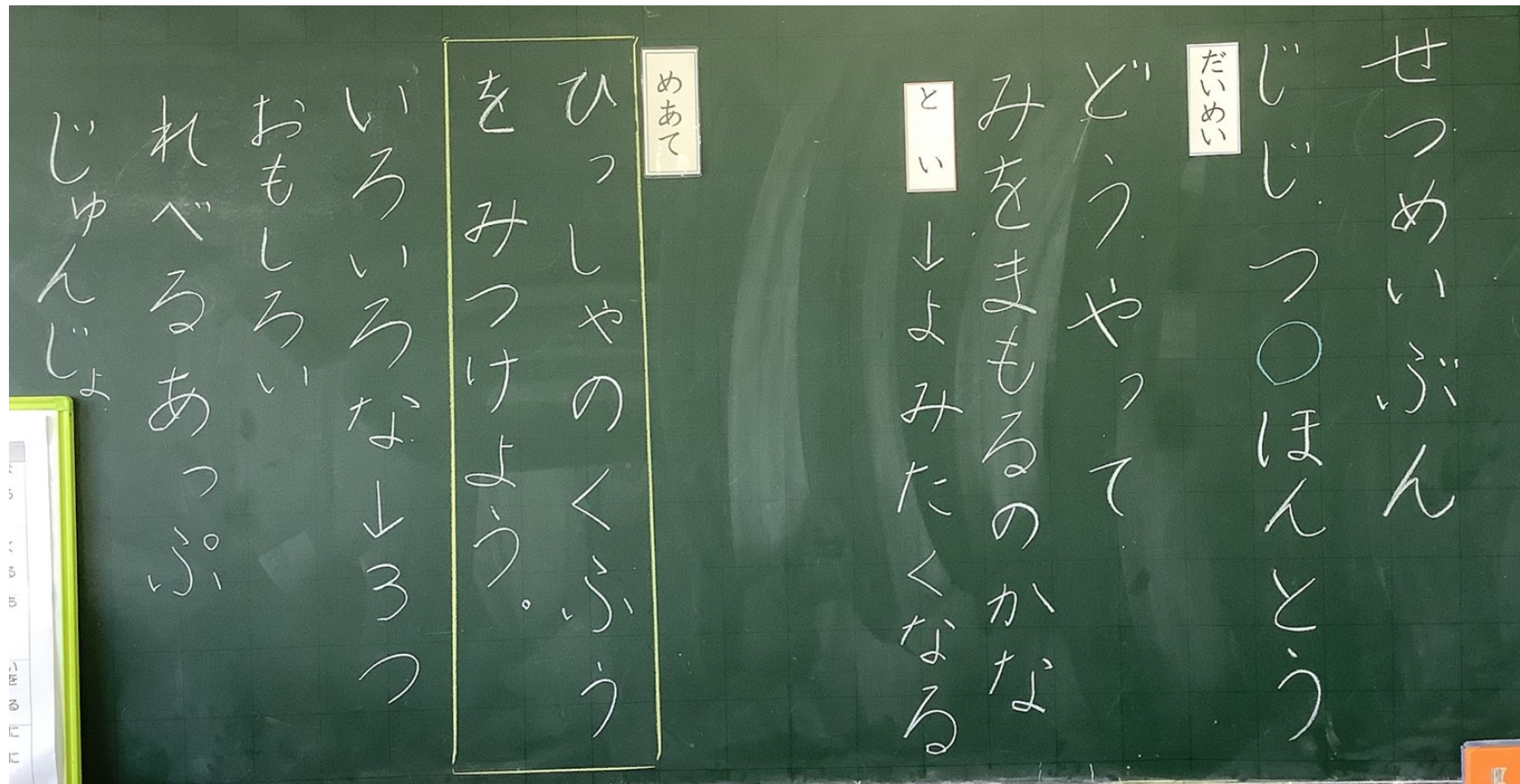
<授業実践 東京書籍 1年国語「さとうとしお」>



<授業実践 東京書籍 1年国語「さとうとしお」>



<授業実践 東京書籍 1年国語「どうやってみをまもるのかな」>



<授業実践 東京書籍 1年国語「どうやってみをまもるのかな」>

も かつ 13にち もくようび

れい①

なまえ

やまあらし

からだ

せなかにながくて
かたいとげ

みのまもりかた

こたえ

とげをたてる

てきがきたら

うしろむきになっ
てとげをたてる。

<授業実践 東京書籍 1年国語「どうやってみをまもるのかな」>



- ・ 校外学習（動物園）でカメの身の守り方について学習。
- ・ 学校でカメの説明文を書く。
- ・ 例の何番目に入れるとよいか考える。
- ・ 他の動物でも説明文を書く。

<授業実践 東京書籍 1年国語「いろいろなふね」>

おわり	中 ふねのれいを くりかえし	はじめ	まえがき
いろいろなふねが、それぞれの あうように つくられています。 まとめ	④ しょうぼうてい ③ ぎょせん ② フェリーボート ① きゃくせん あまり見ない よく見る いごとなかま じゅんじょ	ふねには いろいろな ものが あります。 たのしみ。よむじゅんび とい	ふねには、どんなやく目があるのでしょうか。

いろいろなふね① なまえ

めくみたてのくふうを見つけよう

よみたくなる

<授業実践 東京書籍 1年国語「子どもをまもるどうぶつたち」>

⑩ おわり

どうぶつたち ↑ たくさん
ある

さまざまな ちえ

子どもをてきからまもる。
そして

子そんをのこし
いのちをつないでいるのです。

ライオンも オオアライグマも
コチドリも おなじ。

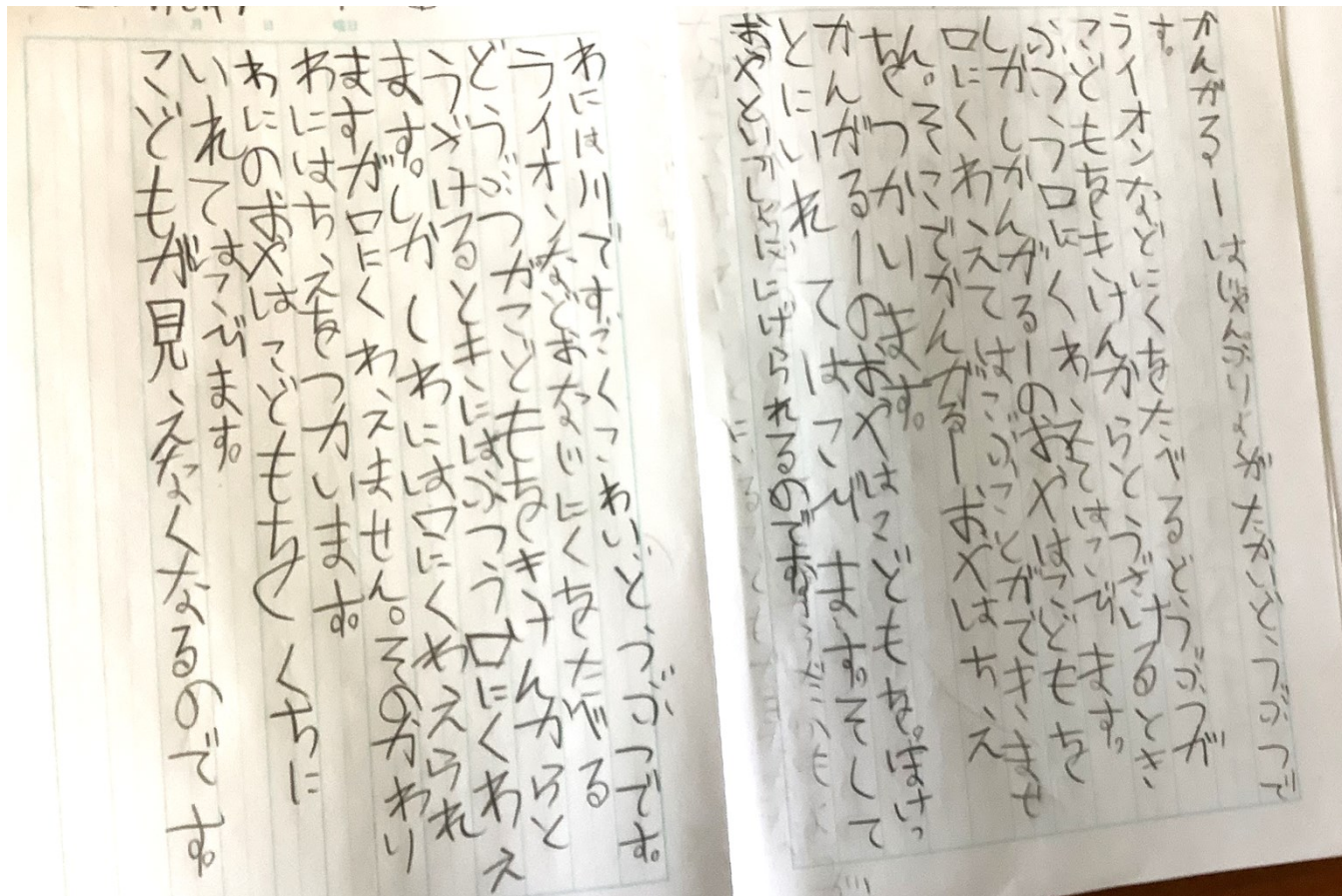
じゅんじょ
どうぶつ ↓ とり
大きい ↓ 小さい
つよい ↓ やわい
しっている ↓ しらない

ふつう ↓ おもしろい
かしこい

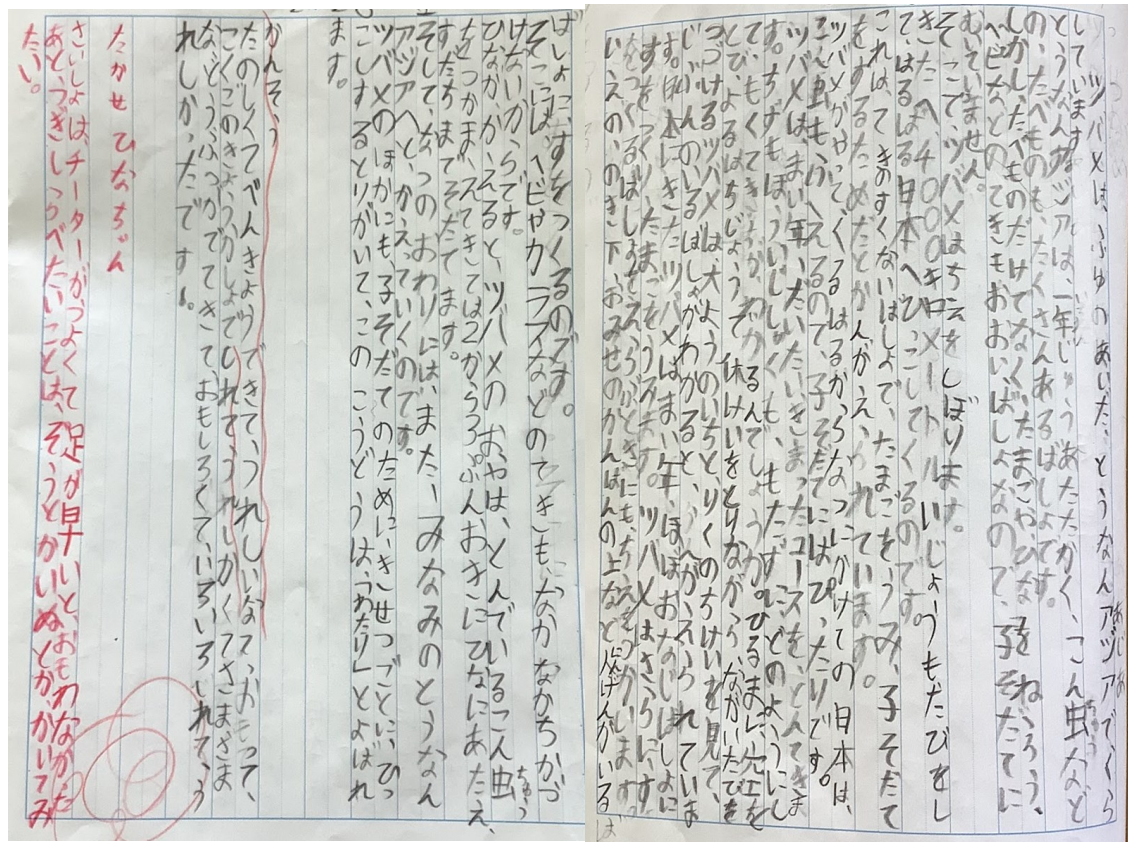
ちえすくない ↓ おおい

おもしろく、かしこく
さいごまで よんでもらう
くふう

<授業実践 東京書籍 1年国語「子どもをまもるどうぶつたち」>



<授業実践 東京書籍 1 年国語「子どもをまもるどうぶつたち」>



<感想>

楽しく勉強できてうれしいなと思った。国語の教科書で知れてうれしくて、様々な動物が出てきて、おもしろくて、いろいろ知れてうれしかったです。

5 成果と課題

<成果>

○児童の様子から

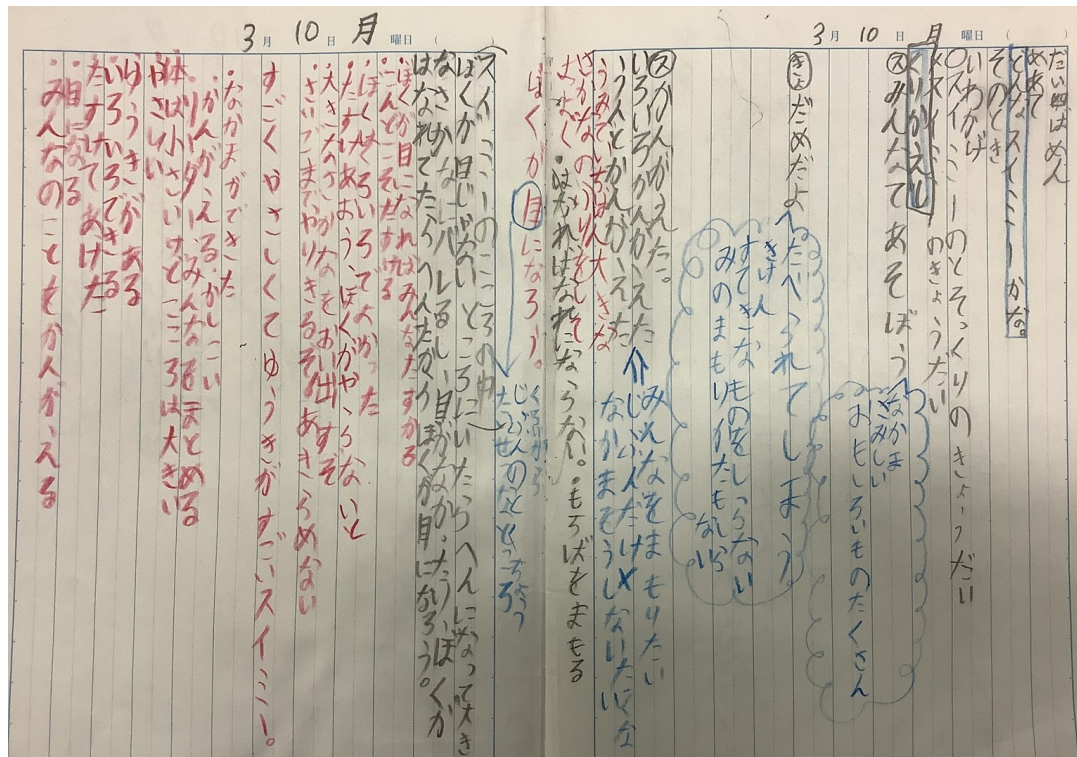
- ・ **自分の考えをノートに書き表すことができる児童の増加。**
- ・ **授業中の発言やノートの記述から、児童が言葉と向き合い思考を深めている様子が見られた。**

○学力調査結果から

- ・ **「書くこと」 6学年中5学年 全国↑**
- ・ **「思考・判断・表現」 6学年中4学年 全国↑**

5 成果と課題

<成果>



1年生最後の文学教材「スイミー」での児童のノート。

自分の考えだけでなく、友達の考えを書き写したり、考えを追記したりする様子が見られた。

5 成果と課題

<成果>

本学級 学力調査結果（1年生 12月、2年生 4月、12月、3年生4月）

		読むこと	話す・聞く	書く	知識・技能	思・判・表
R6.12	本学級正答率	71.1	76.7	80.0	86.0	75.0
	全国平均	68.1	67.2	77	80.4	69.7
R7.4	本学級正答率	71.4	80.7	89.3	94.8	78.6
	全国平均	69.0	74.5	66.0	90.9	70.3
R7.12	本学級正答率	68.5	78.6	100.0	90.7	78.8
	全国平均	72.1	75.7	70.4	88.0	73.0
R8.4	本学級正答率	78.7	85.1	75.2	87.0	78.8
	全国平均	71.1	76.5	60.3	80.0	68.4

5 成果と課題

＜成果＞教職員の変容（研究まとめ、意識調査より）

○共通理解のもと研究ができ、**一貫性のある指導**ができた。

○教材分析の理論や方法についての理解が深まり、**指導のポイントや重点**を見いだせるようになった。

○学年部を母体とした研究を進めたことで、学年だけでなく、**学年を超えた協働的な授業づくり**を実現できた。

○教材分析や児童の様子について語り合う**職員室**の実現。

互いに学び・支え合う「同僚性」の構築

5 成果と課題

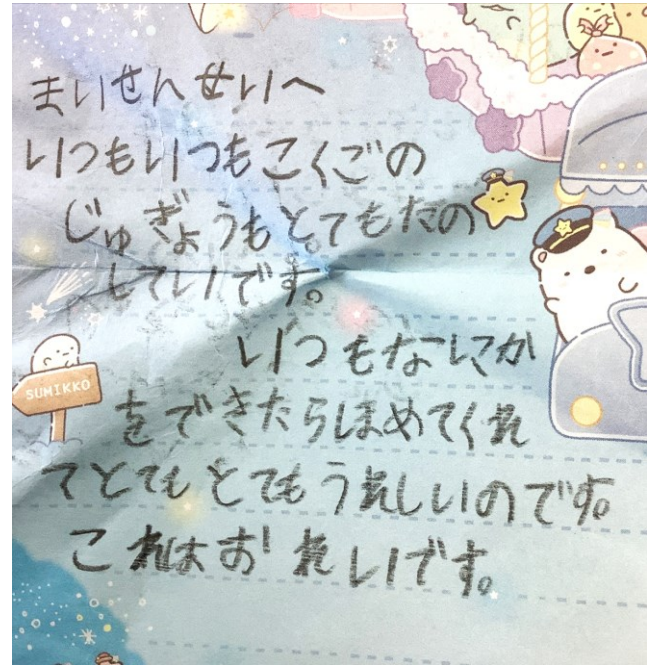
<課題>

- 他領域、他教科での実践は個人差あり。推進していくための手立てが必要。
- 対話的な言語活動の充実。
- 児童の「深い学び」を実現するための教師のファシリテーション力の向上。

<私の心を動かした児童からの手紙>

まいせんせいへ
いつもいつも（反復）こくご
のじゅぎょうも（助詞）とて
もたのしいです。いつもなに
かをできたらほめてくれてと
てもとても（反復）うれしい
のです（断定）。

これはおれいです。（一番
伝えたいことは最後に）



ご静聴ありがとうございました。